

其南より代々傳來せる羊柳英人  
 好むし雪月花の平石腸なりあり  
 先の其厄ふつゝ入て存ありあつて  
 さいつ以龜貝螺して厄をまよふ祭  
 又その手よ度くく踊りあふ  
 いふる一白と流さくく多りあふ  
 復寸草のあらはくくと開かんと  
 流風さく若狭の晋子血脉な族  
 大和因何某そりいさく海ありて  
 密晋齋の彌を附屬せんといふ  
 こゝろを道何り玉の光何を庵く  
 ういふくく圓く辞れも由らる  
 と海れかくまれ燕石の方好くとも  
 つゝ海をさきくくくくくくく  
 あゝ海を油背くくあゝのくくく  
 こゝいふくくの賢達をくくく  
 流君子のあつたを希くくくくく

大橋 海心  
 めくくく日え何るそ

湖十

仕核

海 丹 包 淡 郎 立 晴 雨 興 行  
 右 林 三 月 廿 四 日 遊 西 園 柳 橋

但 天 地 入 口 齋 景 皇 上

自 叙

百 泰 龜 貝 永 機  
 立 志 佛 外 雪 志

日 國 見 日 評 二 吐

社 中 補 助

湖 十 會 主